

研究推進にあたり

本校には、校訓「浜っ子」育成を基本理念として、各人がそれぞれの「役割」と「責任」を果たし、互いに自己有用感を味わって生活する子どもたちと、温かく支えてくださる保護者の存在があります。その保護者や地域の方、とりわけ、本校の卒業生の皆様をお招きして、これからを生きる本校児童の「浜っ子」への願いを座談会の形で語っていただきました。

浜っ子育成座談会報告

1 日 時 平成30年8月11日（土）
10時～11時30分

2 場 所 称名寺

3 参加者

- ・ 禰宜田政信様（市長）・磯貝暢宏様（教育委員）
- ・ 倉田実様（下区長）・山本富士夫様（上区長）
- ・ 高松透様（中区長）・磯貝孝行様（H30PTA 会長）
- ・ 中谷真人・五十嵐久恵・杉浦裕介・家出順子

4 内 容

(1) 浜っ子の昔（今との比較を交え）

- ・ 遊びの中で自然と異学年交流ができ、学校から帰ると神社やお寺、かこ屋など地域の中で遊び、地域もそれを許してくれた。
- ・ 周りの人がよく怒ってくれた。
- ・ 給食は残せなかった。
- ・ 勉強より、働くことを奨励された。小学生から畑仕事や荷物運びなど家の中では働き手としてみなされていた。刈谷までノリを運んだり、いも堀りをしたりした。新聞、牛乳配達している子どもクラスに何人かいた。
- ・ 今は子どもの教育環境をすべて大人が準備し、その枠の中に子どもを入れていく感じがする。今の子は過保護のような気がする。
- ・ 昔は授業は先生の声と黒板中心だった。しかも先生の手書かれた板書の字が読めないときもあり、学習には耳が頼りだった。今の学習は目で見て理解することが多い。教科書など写真や絵が豊富で分かりやすいが、文字が少ない。読み取る力が落ちているのではないか。
- ・ 先生の数はいくつか多い。昔は50人学級だった。
- ・ 昔に比べ、今は家が居心地よくなっている。昔は家にいると怒られたり、働かされたりした。今は親が仕事に出かけ、一人でゲームなど好きなことができる。
- ・ 外国人が増えている。家を買って定住する方もいる。今後、お祭りや消防団など地域の担い手として外国の方も入ってくる。



(2) 浜っ子のこれから (浜っ子へのメッセージ)

○磯貝PTA会長

: 子どもたちは上手に育っているので、大浜小学校の今の浜っ子の育成をしていってもらえたらよいと思う。子どもたちは家庭だけで育っているのではないので、これからも地域や学校と協力していきたい。時代がどんどん変わっていくので、環境や個々にあった対応をお願いしたい。

○高松中区区長

: 大浜は地区によって文化や風習が違うが、共通して大事なことは子どもを一人前の大人、自立した大人にすることである。家庭と学校がよく話し合い、その地区にあったことを、協力理解してやっていくとよい。



○山本上区区長

: 大浜の子どもたちは好奇心が豊かで素直だと思う。これからも、保護者とうまく話をしていってほしい。保護者と学校の方針が違くと子どもが間にはさまってしまう。学校と家庭と地域で育てていくことが大事。

○倉田下区区長

: 下区は言葉が悪いといわれるが、根底には愛情がある。相手を思う気持ちを一番大事にしてほしい。相手を思う気持ちがあれば信頼される。

○磯貝教育委員

: 碧南の向こうには海が広がる。世界はグローバル化しているので、海外に目を向けてほしい。学校の授業では、ぜひ世界で活躍している人を紹介し、視野を海外に広げ、そういった人物に心を寄せてほしい。学芸会で地域の歴史を取り上げた年もあったと思うので、地域の教材として地域の財産（人・こと・もの）も取り上げてほしい。

○禰宜田市長

: 外国人も、正しいもの、真理を求める心など心の根本は同じであると感じる。良い心を追求し、先生たちも自信をもってそれを教えてほしい。良いものは普遍的で変わらない。子どもたちが元気で自由闊達に育ち、めいっぱい活躍してほしい。

